

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育原理 Principles of Education		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜・水曜・金曜の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
教育の意義と目的、教育を成り立たせる要素と相互関係、教育と子ども家庭福祉との関連、教育の思想と歴史的変遷、教育の制度、教育実践の様々な取り組み、生涯学習社会における教育の現状と課題等について理解する。				
授業の目標				
①教育することの中心的意味や子ども観等が述べられるようにする。 ②教育に関する歴史の流れが述べられようにする。 ③教育に関する思想(首尾一貫した考え方)のおおよそが述べられるようにする。 ④教育の社会的要因、教育制度の基本が述べられるようにする。 ⑤生涯学習社会における課題について述べられるようにする。 ⑥教育と子ども家庭福祉との大まかな関連性が述べられるようにする。				
授業の方法				
黒板を使つての説明を中心とした講義を行う。なるべく著作の現物や思想家の写真等を見せながら、イメージをわきやすくするようにする。また、4人から5人の小集団を作り、教育に関するテーマについて討論して発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育と保育の意味や子どもの見方を説明することができる。 (2) 教育の歴史や教育することに関する対照的な、異なった考え方の長所と短所を述べるすることができる。 (3) 教育を左右する社会的要因、日本の教育の目的と教育制度の骨格、教育と福祉制度との関係を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、教育と保育(こども家庭福祉)			
第2回目	教育の意味(保育の意味)			
第3回目	教育を成り立たせる要素と相互関係			
第4回目	教育の目的と目標の考え方、民主的な教育目標			
第5回目	日本教育史、古代から中世			
第6回目	日本教育史、中世から近世			

第7回目	日本教育史、近代
第8回目	日本教育史、現代。現代社会における教育課題
第9回目	西洋教育史、原始からギリシャ
第10回目	西洋教育史、ギリシャ
第11回目	西洋教育史、ローマから中世
第12回目	西洋教育史、近代
第13回目	西洋教育史、近現代
第14回目	教育思想の基本（家庭や子ども観）
第15回目	教育思想の基本（学校や学習観）
事前・事後学習	講義のポイントを復習すること、宿題をすること。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	到達目標に示した内容に関する基本的事項を述べられるかどうかをペーパーテストにより尋ねる。ノートの持ち込みは出来ない。評価基準の詳細は講義中に説明する。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：矢藤編「教育原理」（中央法規）。参考書は講義内で指示する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。